

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270201561
法人名	有限会社 ナイスケア
事業所名	ナイスケア グループホーム白岳
所在地	長崎県佐世保市白岳町604番地 (電話) 0956-33-0020
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 3月27日

【情報提供票より】 (平成19年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 3月 1日
ユニット数	3 ユニット
職員数	24 人
利用定員数計	27 人
常勤24人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4階建ての 2~4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要 (12月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	11 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	73 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千住病院、佐世保中央病院、大串歯科医院、
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海岸近くの賑やかな住宅地の中にナイスケアグループホーム白岳は位置している。開設当初に作成された運営の理念には既に地域との関わりが明記されており、職員にもよく浸透し活発に地域とかかわっている。利用者に対する介護計画は毎日モニタリングを実施するなど細かな作業が積み重ねられている。さらに、職員に対しては受講したい研修の希望をアンケートで収集し検討するなど職員のレベルアップに力を入れている。利用者家族にもアンケート形式で意見等の収集に取り組んでいることは特筆すべき点である。職員がすべて常勤であり退職や異動が少ないのも利用者や家族にとって安心である。利用者に対する細かい配慮や残存能力を引き出す工夫は各ユニットにみられ、今後も質の向上に向けて前進し続けるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	全員での会議が無いことから、ユニット会議を全員で実施するようになった。また、ストレス解消のため職員の帰宅時間を早くしたことや協力して介護の負担を軽くするようにした。さらに、注意の必要な物品については手の届かない場所に保管するようにしたなど改善が見られる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者と職員2名で作成した。外部評価の改善については取り組まれているが、職員全体での検討会議はなされていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の主な討議内容は年間スケジュール発表、行事発表、家族アンケートの内容検討などがある。討議内容を活かした取り組みとして、職員の名前と顔がわかりにくいいため名札を作成した。また、ホーム便りを造って欲しいとの意見が出たためホーム便りを作成し送るようになったなどがある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族から出た意見については申し送りノートに記載して回覧し、ユニット会議にて検討され、最終的に改善等が決定したのち家族への報告がなされる。意見等の運営への反映として出納帳を毎月送って欲しいという意見に対して毎月送るようにしたなどがある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常生活における地域との連携として、職員と利用者で参加される道路清掃、敬老会、カラオケ教室がある。地域の方に来ていただくものとして、ホーム主催の夏祭り、芋ほり、活け花教室などがある。また、避難訓練時には地域の方にも参加要請を行っている。

2. 評価内容(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は数項目ある中に「地域に密着した事業運営を行う」という項目があり、開所当初から地域密着型サービスを目指した理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングで理念を確認し、職員は日々の実践に活かすよう取り組んでいる。理念実践のため利用者の要望を聞き入れるよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、町内会に加入し、草取りに参加したり、敬老会や夏祭りなどにも利用者と一緒に参加し地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者と職員2名で作成した。外部評価の改善については取り組まれているが、職員全体での検討会議はなされていない。	○	自己評価については職員全員で作り上げることによりホームの強みや弱みが確認できるため今後は職員全員の参加による作成を期待する。また、外部評価の改善についても全員で検討し改善に向け取り組むことを期待する。

グループホーム ナイスケア白岳

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3月16日に2回目を開催した。構成メンバーは家族代表、佐世保市担当、有識者、自治会長、事業所職員となっているが行政と地域からのメンバーが欠席で実施されている。家族アンケートの内容やホーム便りの作成などが検討されている。職員の名前と顔が一致しないことから名札をつくることを決めるなどサービス向上に活かした取り組みがある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管轄の日宇支所とはよく連絡を取っている。公民館活動の卓球、詩吟、カラオケ教室に参加したい旨を伝え、支所を通して自治会長から誘いがあった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には利用者の近況、身体の変化、金銭管理などの報告をしている。金銭管理ではこれまで利用者ごとに領収書をまとめてはいたが、家族に渡していなかった。これからは毎月、請求書を発送する際に同封し報告したいと考えている。また、職員の異動については、家族から聞かれた場合は報告している。	○	職員の異動や金銭管理における報告など家族との信頼や協力関係を築く上で重要な事柄であるため個別にきちんと報告することを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には訪問時に声をかけて気にならないかを尋ねている。出された意見や希望は即座に検討し対応している。苦情受付窓口は内部、外部ともに掲示されている。ただし、重要事項説明書への外部窓口の記載がない。	○	利用者や家族からの意見等の窓口については重要事項説明書に記載し、入所時や面会時等、折に触れて繰り返し説明することを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動についての報告は、利用者や家族にタイミングをみて話をしている。異動におけるダメージを考え事業所間およびユニット間の異動を極力抑えるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の希望をアンケートで職員に問い、希望に沿った研修を専門家を招いて実施している。各ユニットから数名が受講し、参加できなかった職員へは報告している。外部研修は佐世保市グループホーム連絡協議会、中部2組の事例検討会に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保市グループホーム連絡協議会所属の職員でバレーボール大会やお茶飲み会を開催し、職員同士の交流を図り互いの情報交換や良い点を吸収し支援に活かす取り組みをしている。また、連絡協議会メンバーのホームを見学するなどの研修も実施している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始時は、家族に回数多く訪問してもらったり、電話で声を聞いたりしている。また、部屋づくりは大切なポイントとなるため家族と一緒に部屋を作っている。入居までに馴染みの関係を作るため家庭訪問を実施したり、体験入所を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	子どものしつけ、料理の仕方、野菜づくりなど利用者から学ぶことは多く、利用者を敬うことを常に心がけ互いに支えあう支援を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向の把握については、担当者を決めて聞き出している。また、言葉や表情から思いを把握するよう努めている。表現の困難な利用者の場合は家族から聞きだしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、主治医、ユニット長、職員の面談により得た情報をもとにケアマネージャーが計画書を作成し、その計画書を職員全員で会議により検討する。出来上がった計画書については利用者や家族に同意をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月ごとに介護計画に対する評価をし、3ヶ月に一度見直しをしている。基本は計画は6ヶ月としているが、急な変化や入退院時には計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	故郷への帰省、理美容室、墓参り、畑、ツワ取りなど利用者の希望に応じて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
b					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ全員にかかりつけ医がいる。月に一度、職員同行によりかかりつけ医を受診している。かかりつけ医が無い場合は利用者、家族の希望を聞いて、受信する病院を決めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、該当すると思われる利用者の家族へは話をしている。ホームとしては協力医と連携をとりながら今後検討していく考えであるが、まだ終末期に向けての職員間での方針は共有できていない。	○	終末期のあり方については、利用者やその家族、また、かかりつけ医と話し合いを持ち職員を含めたところで方針を話し合い対応について検討することが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「個人情報に関する取り扱い同意書」が家族に対して取られている。声かけは丁寧だが、職員によっては声が大きく、言葉かけに他の利用者の動きが止まることもある。	○	全体としては利用者に対する言葉かけは尊厳を損ねるようなところは見受けられないが、一部で対応の相違が見られるため、再度ホーム全体としての対応について検討することを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先することなく、利用者がその日の気分で楽しく過ごせるよう支援している。利用者のペースを守るため急がせるような言葉かけはしないようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや味見など一緒に楽しく食事の準備をし、職員も同じ食卓を囲んで会話しながら食事している。利用者の能力にあわせ、トロミなどの工夫もしている。また、食事の前に嚥下体操を行うなど工夫が見られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中が主な入浴時間となっているが、利用者の気分や病院受診がある場合は午後からの入浴とその人に合わせた支援をしている。入浴の無い日曜日には足浴を実施している。入浴ができない時はドライシャンプーや清拭を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	雑巾縫い、新聞たたみ、洗濯物干しやたたみなど利用者の力を見ながら役割や場面を作って支援している。また、詩吟教室や生け花教室などを開催し楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩などは日常的に行っている。週に2回は買い物に、また、日曜日はドライブに出かけている。車椅子の利用者には最低でも月に一度の外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は施錠することなく、利用者は自由に入出入りしている。通常は玄関は施錠していないが、ユニットによっては外出願望のある利用者の様子を見ながら時間帯によって家族の希望で玄関を施錠している。		

グループホーム ナイスケア白岳

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を実施している。最近では夜間想定でも行っている。また、消防の研修も受講しており、行事のときなどに地域の方々に協力要請を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は個人日誌に記載し状況の把握をしている。また、栄養バランスについては、栄養士が献立を考えているためバランスよくとれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングは広くて掃除が行き届いており、季節の草花を生けてあるなど季節感があり快適な空間である。利用者がくつろぐリビングでは、トイレの回数が多い利用者のためにトイレに近いところに座ってもらうなどの工夫も見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者馴染みの物品が持ち込まれ個性のある部屋づくりができています。また、重度化のため一部で電動ベッドが配置されたり重度の方のための移動ができる手作りのベッドなどが使用されている。		

※ は、重点項目。